

年長保護者各位

年長だより No.6

認定こども園
國學院大學栃木二杉幼稚園

親子遠足では早朝よりご参加いただきましてありがとうございました。
《向井千秋記念子ども科学館》では、“忍たま乱太郎の宇宙大冒険”のプラネタリウム、体験や観察の世界、応用の世界などを楽しみました。また、《あしかがフラワーパーク》でおいしい昼食をみんなで食べた後に、移植された大藤の迫力を親子で観て感じていただいたのでしょうか？
幼稚園生活での楽しい思い出の一つとしてお子さん達の心に残ってくれたら幸いです。



ロケットに乗って宇宙に行ってみたいな！



大きな夢を持って下さいね！







木のひっこしなんて聞いたことありますか。作者の塚本こなみさんは、日本の女性樹木医第一号です。木のひっこしをします。樹齢1000年のもっくの木をはじめ、巨樹、古木をたくさんひっこしさせました。現在、栃木県の植物園「あしががフラワーパーク」にある大藤も、3年もの歳月をかけて、塚本さんがひっこしさせたものなのです。いったいどうやって？とてもめずらしい大藤のひっこしのお話です。

～足利フラワーパークって どんなところ～

栃木県足利市堀込町に「早川農園」として1968年に開園。以来「250 畳の大藤」として愛されておりましたが、都市開発の為

1997年に現在の足利市迫間町（はさまちょう）に移設し、「あしかがフラワーパーク」としてオープンしました。

樹齢 160 年におよぶ大藤と四季折々の花が楽しめる「花と光の楽園」。

特に春は 600 畳敷きの藤棚を持つ大藤や、長さ 80m もの白藤のトンネル、きばな藤など 350 本以上の藤が咲き誇り観るものに感動を与えます。

また、同時期に見頃を迎えるクルメツツジや、5～6 月には「バラ」「クレマチス」「しゃくなげ」「花菖蒲」、夏には「アジサイ」「スイレン」が園内を彩ります。

秋は 20,000 株の「アメジストセージ」が園内一面むらさき一色に染め、10 月中旬～2 月中旬にかけては日本三大イルミネーションに認定されている「光の花の庭」も見所。いつ来園してもお楽しみいただける園内となっております。



開花している時の大藤



園長 塚本こなみさん

日本の女性樹木医第一号

～木のお医者さん～



大藤の引っ越しを手掛けて

くれる人がいない中、木の“生命力”を感じた塚本さんが、引き受けて下さいました。毎日、毎日木に語りかけ続けた塚本さん。その塚本さんの気持ちが“大藤”に伝わり、4 本全ての藤が芽吹いたそうです。

平成8年に引っ越しが始まり、翌平成9年に、『足利フラワーパーク』として、またこの生命力満ちた巨樹を見ることが出来るようになりました。

現在は『世界一のふじ』といわれ、開園して今でも、枝を広げつづけているそうです。



塚本こなみさんは、24 歳のときに、造園業を営む夫と結婚しました。3 人の子だからに恵まれ、子育てのかたわら、夫の造園業の経理を手伝いました。

次第に造園の現場にも足を運ぶようになり、樹木の美しさに心をひかれていきます。その頃、樹木医の資格がはじまり、猛勉強をして取得しました。どんな仕事も引き受けて、体当たりで仕事にのぞみました。2 年後、樹齢 400 年の藤の大木の移植を行うという前例のない仕事が舞い込みました。あれこれと、悩んだ挙句、人間が骨を折ったときに使うギプスの材料である石膏で固めて藤の木を運ぶという作戦を思いつきます。



藤の木の枝や葉の生命力に驚きでした。まさに【奇蹟の大藤】です！
藤の木のように大きくたくましい人間になって下さい(#^.^#)